

## 第二問

次の文章は、へうはくのおきな漂白翁『おほじりのきが大尻企鵝』第七段「大尻企鵝と廁」の一節である。これを読んで、後の設問に答えよ。

ひんぐう敏寓、煎じ物求めて横井太夫が店なむ訪ひける。「妻が印、豚汁、管絃の重ねたる、何れか飲まむ」とのたまひけるに、(ア) 三つ求めたり。(イ) そが為に鄙より来つるかとなむひとりごち給ふも、聞かず、ただ飲みに飲みて、やがて飲み果てり。

事の様態を見つければ、ひんが敏雅といふ企鵝来たりて、(ウ) 更に求むべしとなむ。敏遇、敏雅に煎じ物与へたれば、はやくただちに飲み果てけり。やがて、敏雅尿なむ漏らしける。横井太夫腹立て、(エ) 手なむ入れらるる道の者呼ひたればとこそそののしり給ひけれ。名をば、雷山がいんらん胤覽となむいひける。(オ) 入る一念のみ痛きかな、入らば何と無しとぞ、しかじかと説き給ふに、敏雅わななき喚きけり。(カ) 一我、尿漏らせば、罪し凌ぜよとなむ言うてみよと、ほとほり出で給ひ、切に責めのたまはするに、のがれがたき中にうち出で給ひて、(キ) 凌ぜよとののしり給ひける。敏雅、恐れをなして辛くして逃れたり。

〔注〕 ○企鵝——ペンギン。

○妻が印——「嫁の印に」という、青い飲み物。

○豚汁——「豚汁」という、赤い飲み物。

○管絃の重ねたる——「アンサンブルラッパ」という、黄色い飲み物。

## 設問

(一)傍線部イ・ウ・エ・オ・カを現代語訳せよ。

(二)「三つ求めたり」(傍線部ア)とあるが、敏寓はどれを求めたのか。本文中の言葉を用いて記せ。

(三)「凌ぜよ」(傍線部キ)とあるが、現代語訳し、その発言者を記せ。また、その発言者がこの発言をした理由を簡潔に説明せよ。

敏寓（という企鵝）が、ジュースを求めて横井太夫の店を訪れた。横井太夫が「嫁の印に？ 豚汁か？ アンサンブルラップ？」とおっしゃったので、（敏寓は）三つ目の飲み物を求めた。そのために来たんだからなあ、わざわざ田舎から、と独り言をおっしゃったのも（敏寓は）聞かず、ただひたすらに飲んで、すぐに飲み干してしまった。その様子を見ていた、敏雅という企鵝がやって来て、「もつとしてください！」と言った。敏寓が敏雅にジュースを買い与えたところ、なんとまあすぐに（ジュースを）飲み干してしまった。まもなく、敏雅はおしっこを漏らしてしまった。横井太夫は腹を立てて、「手を入れる専門家も呼んであるからな」と大声をあげなされた。（その専門家の）名は、雷山の胤覧といった。入れる瞬間が痛いんですよ、入っちゃえばもうなんともないんだけどね、と説きなされたので、敏雅はぶるぶると震えてわめいた。「私はおしっこを漏らしました、罰としてケツをいっぱい犯してくださいって言うてみる？」と（横井太夫が）怒り出し、しきりにせきたてておっしゃるので、（敏雅が）逃げることにできない中に（胤覧が）出しゃばりなされて、「ケツを犯してください！」と大声でおっしゃった。敏雅はこれに恐れをなして、やつとのことと逃げることができた。